

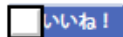


## 京都府立医大など、角膜の透明性維持する遺伝子を発見

掲載日 2013年12月12日



13



いいね!



0



0

京都府立医科大学の木下茂教授、同志社大学の中村隆宏准教授らの研究グループは、スイス連邦工科大学ローザンヌ校などと共同で、角膜の透明性がLRIG1という遺伝子によって維持されることをマウス実験で突きとめた。角膜疾患で、創薬開発や治療法の確立につながると期待される。

研究グループが角膜上皮幹細胞の遺伝子発現を解析したところ、LRIG1がヒト角膜上皮幹細胞で特異的に発現していたという。そこで、LRIG1を欠損させたマウスを作製すると、このマウスは6カ月後に炎症を伴い、角膜の透明性が徐々に失われ、最終的には失明した。LRIG1が炎症を抑えて、角膜の透明性を維持する役割を果たすためとみている。

中村准教授らは今後、iPS細胞（万能細胞）などから角膜の再生医療を進める上でLRIG1の発現がマーカー（標識たんぱく質）として重要になると指摘。

記事の続きや他の記事は、[有料電子版](#)でご覧いただけます。

Google® カスタム検索

検索

「想定外」を、「想定内」に

swagelok® 圧力レギュレーター



昇降装置なら実績豊富な  
河原のリフトテーブル!

KITO

日刊工業新聞 電子版